講義名	環境経済論					授業形態	
担当教員	内山　勝久	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 １時限				
		単位数	2	履修開始年次	３年生	ナンバリング・コード	ECN381

主題と概要

この授業は、経済学の枠組みに基づいた環境問題の捉え方を習得することを目的とします。
環境問題は地域的な問題から地球規模の問題までさまざまですが、我々の経済活動に起因している点で共通しています。環境問題は学際的な問題であり、さまざまな分野の専門的知見が必要ですが、この授業では経済学の考え方を活用し、環境問題解決のためにはどのような対処方法があるのかを検討し理解を深めます。
授業では環境問題と環境政策を理解するための経済理論の解説が中心となります。理論ですから抽象的な思考が求められますし、内容も高度になります。理論は現実の経済社会を理解したり改善するための指針となるものですので、習得した事項を現実の問題に適用できるような応用力も養成したいと考えています。
ミクロ経済学の応用科目なので、論理的思考能力や抽象的思考能力（いずれも社会で必要とされる能力です）を向上させるためのトレーニングに適しています。

到達目標

各受講生が、
（1）環境問題と経済活動の関係について理解し、ミクロ経済学に基づく環境経済学の基礎的で重要な概念・枠組みを習得して、他者に説明できるようになること、
（2）環境問題発生のメカニズムや環境税・排出量取引などの環境政策の経済的手段を、環境経済学の体系に基づいて理論的に理解し、その知見を応用してローカルな環境問題、グローバルな環境問題の改善案を提示できるようになること、
（3）現代社会の重要課題である持続可能な社会の構築に向けて、個人や企業が果たすべき役割を理解し、望ましい環境配慮行動のありかたを提案できるようになること、
を目指します。

提出課題

・中間課題として、期中にレポートを提出してもらう予定です。また、期末には期末レポート課題を提出してもらいます。詳細については授業内で説明します。
・レポートは授業内容の理解度を確認するものになる予定です。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

・提出された課題については、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準

・中間レポート課題40%、期末レポート課題60%の比率で評価します。
・授業内容に関する的確な質問や優れたレポートに対しては、満点を超えて加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他

・この科目はミクロ経済学の応用科目です。履修にあたっては経済学入門とミクロ経済学を履修済みであることが望ましいです。例えば「限界効用」「限界費用」「消費者余剰」「生産者余剰」という言葉に接したときに、意味やイメージが思い浮かばないと授業内容の理解は難しいかもしれません。ミクロ経済学の理解が十分でないと感じる学生は、もう一度自分で復習する必要があります。
・授業では、数学の図やグラフが登場します。授業では丁寧に説明しますが、苦手意識のある受講生は数学（図やグラフの描き方、読み方）に関する復習が必要かもしれません（数学が得意だと有利です）。
・各回の授業は、それまでの授業内容の理解を前提とした「積み上げ型」になります。したがって、コツコツと計画的・継続的に学修する習慣が身についていないと授業について行けなくなる可能性があります（試験前の一夜漬け的な勉強だけでは単位修得は困難かもしれません）。授業は丁寧に進めていきますが、途中で流れを見失わないように、不明の点は積極的に質問するなどの姿勢と努力が求められます。
・授業内容は経済理論の説明が中心となりますので、抽象的で難易度も高めになります（経済学の内容としては標準的なレベルです）。理論が苦手な学生には苦痛でしかないかもしれません。難解なことに挑戦しようという意欲的な学生の履修を期待します。
・関連する科目に「公共経済論」があります。並行して履修すると理解がより深まります。環境問題と経済の関係をやさしいレベルで理解したいという学生には「地域環境政策」や「都市環境論」の履修を推奨します。

教科書

.特定の教科書は使用しません.				

参考図書

.入門 環境経済学 新版―脱炭素時代の課題と最適解.	有村俊秀・日引聡	中公新書	990	9784121027511
.環境経済学をつかむ（第4版）.	栗山浩一・馬奈木俊介	有斐閣	2,640	9784641177291

その他

・担当教員が作成した資料を使用して授業を進めます。資料（PDFファイル）はキャンパス・クロス経由で毎回配布します。
・授業内容は、参考図書に記載した『入門 環境経済学 新版―脱炭素時代の課題と最適解』（中公新書）の書籍がベースになる予定です。この書籍は「新書」なので対象読者は一般人ですが難易度はやや高めです。授業では書籍の内容を補足したり発展的な要素を加味した説明を行います。この書籍は教科書ではありませんが、授業の予習・復習に有益ですので、入手することを推奨します。
・その他の参考図書は授業中に適宜紹介します。

授業計画

第1回　　イントロダクション：　授業の進め方、および環境問題と経済活動の関係について
第2回　　持続可能な発展と環境・経済
第3回　　環境問題と市場の失敗（1）：　需要曲線と供給曲線を理解する
第4回　　環境問題と市場の失敗（2）：　外部性と市場の失敗
第5回　　環境問題と市場の失敗（3）：　公共財とフリーライダー
第6回　　環境問題と市場の失敗（4）：　共有資源の利用と管理
第7回　　政策手段の選択（1）：　直接規制
第8回　　政策手段の選択（2）：　環境税
第9回　　政策手段の選択（3）：　環境補助金
第10回　環境問題は交渉によって解決できるか（1）：　直接交渉による解決とコースの定理
第11回　環境問題は交渉によって解決できるか（2）：　排出量取引（1）
第12回　環境問題は交渉によって解決できるか（3）：　排出量取引（2）
第13回　環境政策への応用（1）：　廃棄物政策
第14回　環境政策への応用（2）：　気候変動・地球温暖化防止政策
第15回　環境政策への応用（3）：　国際貿易と環境

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・授業前に、事前に配布された授業資料に目を通し、授業内容に関する自分なりのイメージを持っておいてください（その上で授業に臨むこと）。上述の参考図書の該当箇所を読み、不明な点をまとめておくと、授業の理解度が高まります：約1.5時間/回。
・授業終了後は、記憶が鮮明なうちに復習してください（復習して理解できたこととできなかったことを明確にして、理解できなかった点は質問してください）。積み上げ型の授業ですから復習は決定的に重要です。前述の参考図書やミクロ経済学の教科書を併せて読むことで理解度がさらに高まります：約2.5時間/回。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この科目の「到達目標」を達成することで、人間、社会、自然に関する学際的問題である環境問題や、サステナビリティなどの現代社会の重要問題を、経済学の枠組みを通じて理解できるようになり、さらに、環境問題と経済活動の関係を踏まえて、サステナビリティに関する世の中の動向に関心を深め、持続可能な社会の構築に向けた分析ができるようになります。
これは、経済学部経済学科の学生が卒業時に獲得しておくべき資質・能力である、人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身につけ、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察して課題を提案したり、世の中の動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案したりすることができる能力が備わることにつながります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

・授業中のアンケートなどにクリッカー（レスポン）を利用することがあります。

実務経験の有無及び活用

備考